

元大町町長・本町名誉町民の大竹喜久雄さんご逝去



元大町町長で、本町名誉町民の大竹喜久雄さん（享年90歳）が、去る1月20日お亡くなりになりました。

ここでは、大竹さんの数々の偉業を振り返りながら、大町町の発展のため尽力された故人を鈴木町長、丹羽議会議長とともに偲びます。

■当時の時代背景

鈴木町長 大竹さんは、滝実業学校（現在の滝中学校）を卒業後、昭和20年、16歳で役場に奉職されました。

丹羽議長 大竹さんが町長に就任された昭和50年は、第1次オイル

ショックが発生してからちょうど2年後。インフレが加速するなど、

戦後続いていた高度経済成長が終りを迎えた時でした。難しい状況の中で、財源の確保や、適正な運用に努められ、豊かで活気あふれる明るい町政を全力で進められました。

■町長時代の功績

鈴木町長 町長時代、いち早く取り組まれたのが、小中学校の整備です。

近隣市町の方から大町町の小中学校は恵まれていると言われてきた住民さんも多いのではないのでしょうか。教育は、生きていく上で大きな糧になります。大竹さんは、「おおぐちっ子」を育てる基礎を作ってくださいました。

▽小中学校整備△

町長に就任した昭和50年代は、児童・生徒の増加による教室不足や、設備・備品等の整備が緊急課題となっていた。

大竹さんは教室不足解消のため、学校の新設を決意。まず名古屋空港や小牧基地の騒音問題の解決が不可欠と考え、文部省や運輸省等への陳情を重ね、防音処理に関する補助金を獲得した。

昭和51年、大口西小学校の開校を始めとした積極的な整備が進められたことにより、児童・生徒がゆとりある空間と教育施設が整った環境の中で学べるようになった。

昭和51年 大口西小学校開校

大口北保育園竣工

大口南小学校講堂竣工

昭和53年 大口西小学校屋内運動場竣工

大口中学校増築防音校舎竣工

昭和54年 大口北小学校プール改築

大口南小学校校舎増築竣工

昭和55年 大口中学校プール改築

昭和56年 大口北小学校講堂防音改築

丹羽議長 ちょうど大竹さんが町長

就任の年に、丹羽消防組合が発足しました。それまでは、119番の通報が入ると大町役場が受け付け、消防車や救急車の出動は小牧市消防署に頼んでいました。これ以降は、丹羽消防署ができて、より対応が早くなり住民の皆さんも安心されたと思います。



▲丹羽消防署（現在の丹羽広域事務組合消防本部）



▲豊田学共



▲総合福祉会館

▽丹羽消防組合の発足△

大竹さんは扶桑町との間で進められていた消防組合の設立に向け、県・議会・関係機関との調整を精力的におこない、昭和50年10月、待望の丹羽消防組合消防本部および消防署が発足した。

鈴木町長 また大竹さんは、住民の皆さんの生活に関わる「場所」づくりを多くされてきましたね。

▽学習等共同利用施設整備△

地域における文化の向上を目指し、昭和54年以降、4年間にわたり豊田学習等共同利用施設を始めとする7地区の施設を建設。

今も地域のコミュニケーションの場として広く利用されている。

▽総合福祉会館の建設△

高齢化社会への対応、社会教育の指導、文化団体の育成、青少年の健全育成等、多様な役割を担う複合的な施設として、昭和54年4月に竣工。
文化活動・スポーツなど町の生涯教育に利用されている。



▲大口町温水プール

▽温水プール完成△

昭和57年3月に完成。太陽熱を利用して温水にし、年間通して泳ぐことができ、完成当時は、省エネルギー対策の一環として、全国的にも注目を浴びた。



▲当時の新聞。大竹さんが初泳ぎをしました。(昭和57年)

丹羽議長 こうして振り返ると、町内の施設のほとんどが大竹さんの頃に造られています。

鈴木町長 まさに今の大口町の礎を築いてくださったと思います。

また、町の木「もくせい」と町の花「さくら」は、町制20周年を迎えた時、住民の皆さんの投票により決定されました。



▲町の植樹式で、もくせいの木を植える大竹さん(昭和57年)

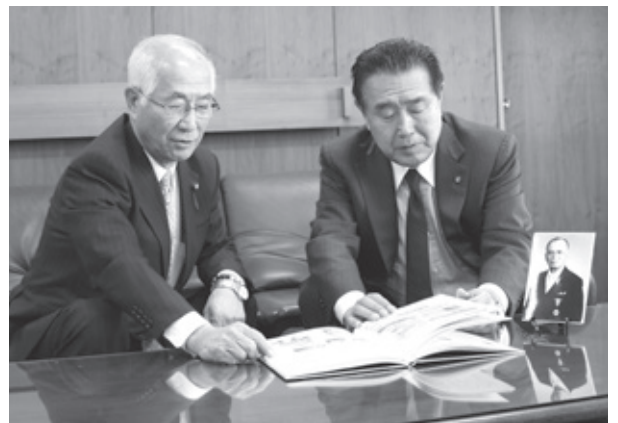
鈴木町長 その他にも、地区別対抗ソフトボール大会や町民体育祭、文化講演会や素人のど自慢大会などが記念事業として開催されました。現在まで続くイベントもあり、ソフト面からも、まちづくりの基本理念「みんなで進める自立と互助のまちづくり」の基礎を作ってくれたと思います。

また、大口町土地改良区では副理事長に続き理事長を担っていただきました。

▽大口町土地改良区理事長として△

昭和58年7月、大口町土地改良区副理事長に就任して以来、約17年以上にわたり各種土地改良事業を推し進め、地域農業基盤の整備に尽力された。

特に県営ほ場整備事業の換地処分には心血を注ぎ、生来の誠実な人柄により組合員および地域住民の協力を得て平成11年12月、全面完了を迎えた。



※土地改良のため、土地に存する権利関係が変わった場合、土地の代わりに他の土地を与えたり、金銭をもって清算する行政処分



▲議員友の会で講演する大竹さん
(昭和62年)

鈴木町長 当時、一緒に働いていた職員からは、『リーダーシップをとって、周りの人をまとめて仕事を進めていくことができる人だった』と。上司として本当に素晴らしい方だったと聞きました。

丹羽議長 仕事には厳しいが、温かいお人柄で、部下の育成に力が注がれたんですね。

同じ頃、地域の皆さんからより広い分野で活躍することを期待され、県議会議員としても副議長等の要職を歴任するなど活躍されました。その間も、常に大口町のことを気にかけておられました。

鈴木町長 引退後も、町政を気にかけておられましたね。プライベートでは、かつての同僚とゴルフへ出掛け、持ち前の負けん気を発揮していたと聞いています。ユーモアも持ち合わせたお茶目な一面もあったそうですよ。

お別れに寄せて

鈴木町長 大口町のことをずっと思いながら町政および県政に携わってこられた大竹さん。数々の功績により、平成14年、名誉町民の称号を授かり、その後も幅広い分野で、ご活躍をされました。

私たちは感謝と尊敬の念を抱きながら、これまで築いてくださった「おおくち」を、大竹さんの想いをつないでいけるよう、邁進してまいります。

丹羽議長 私も同じ思いであります。大竹さん、ありがとうございました。大竹さんの志を受け継ぎ、議会においても、全力を尽くしてまいります。安らかにやすみください。



▲年表で大竹さんの功績をたどる

略歴

昭和3年9月15日生(享年90歳)
大口町出身
昭和20年大口村役場職員として奉職。昭和31年から昭和46年まで大口村および大口町役場収入役、昭和46年から昭和50年1月まで大口町助役(現在の副町長)を務め、昭和50年4月、大口町長に初当選。昭和58年3月に勇退するまで、2期8年間にわたり、町勢の振興発展に尽くされました。

このほか、丹羽消防組合管理者、尾張北部水道企業団企業長、九市三町競輪組合管理者、江南丹羽環境管理組合管理者、愛北衛生処理組合管理者を歴任。昭和58年4月から平成11年4月までの4期16年間、愛知県議会議員として活躍されました。



▲国府宮裸祭、大鏡餅奉納の際の大竹さん
(平成18年)

表彰歴

- 昭和43年 1月 全国町村会自治功労者表彰
- 昭和47年 12月 大口町自治功労者表彰
- 昭和52年 10月 愛知県町村会自治功労者表彰
- 平成 5年 11月 全国都道府県議会議員会表彰(地方自治功労)
- 平成 10年 10月 全国都道府県議会議員会表彰(地方自治功労)
- 平成 12年 11月 勲四等旭日小綬章(地方自治功労)
- 平成 14年 4月 大口町名誉町民に推薦

